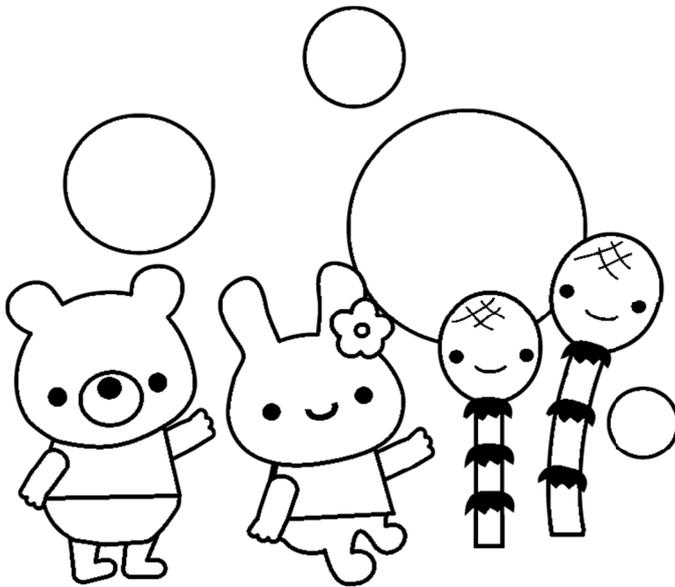


# ニーズレター

(2014年 3月号)

グループホームネット 香川



# 3月

## もくじ

- 理 事 長 卷 頭 言 . . . . . ( 2 )
- 法 人 研 修 . . . . . ( 3 )
- グループホームネット香川とかがわって . . . . . ( 4 )
- 事 務 局 便 り . . . . . ( 5 )

## ▼△▼△ 理事長巻頭言 ▼△▼△

### 伝えたいこと

#### うちだはかる

グループホームで暮らす入居者は、さまざまな生き方をしています。

病院のデイケアに通うもの、作業所に通うもの、自室で過ごすものなどです。いずれも医療の利用者であります。きちんと服薬している人や薬に対して疑問を抱いている人などさまざま。

薬について考えてみます。

服薬をするということはどういうことでしょうか。1年365日。毎食後服薬するという事は1年で1,095回になります。わたし達が風邪をひいて内科にかかると、大体、毎食後に飲むように5日分ほど処方されます。さて、熱が下がり咳も収まり食欲が回復してくるのに3日ほど。

そこで残りの2日分の薬を飲むかどうか。きちんと飲む人も居ますが、「もういいか」と呑まない人も居ます。たいていの家庭では、飲み残した薬が忘れられてあるのではないのでしょうか。

当事者に聞いてみると、20年以上飲み続けていると。まさに歴戦のつわものです。有名な精神科医が書いています。服薬を続けるということは「大仕事」をしている事だと。ある病院では、食後にナースステーションに入院者を並ばせて、あけられた口に薬を入れるということを未だにしていると聞きます。なんと非人間的な扱いでしょう。薬に対するイメージがこの行為で作られることも大いにあります。マイナスのイメージです。

薬物には、副作用がつきものです。体がだるくなったり、重くなったり、考えがまとまらなくなったり等など。服薬の不都合です。薬学の発達で不都合さを少なくしようとしています。まだまだなくならないのが現状です。

まずは当事者に聞く事です。薬を飲む事で不都合はありませんかと。

服薬はそれ自体が「大仕事をしている」ことなのです。その事を覚えておく事は、当事者との関わりで大切な事だと。

グループホームの入所者の方々も、大仕事をしているのです。歴戦のつわものがあるのです。尊敬のまなざしを忘れない事です。

# ▼△▼△ 法 人 研 修 ▼△▼△

## ピアサポーターグループ「クローバー」

増田 周作

2年前から岡山にある社会福祉法人 あすなろ福祉会の協力を得て、理事、ホームワーカー、入居者に対して、研修をおこなってきました。

前回のニーズレターにも紹介がありましたが、2013年10月に岡山へ赴きその活動を実際に見せていただきました。

その中で、ピアサポーターという活動に興味があわき、もう少しお話を聞いてみたいということになり、2014年2月22日に法人研修という形をとり、ピアサポーターとして活動している4名とスタッフ1名で、香川においでいただき、お話を聞かせていただきました。

ところで、ピアサポーターという言葉ご存知でしょうか？

ご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、少し説明させていただきます。

ピアサポーターのピアとは、『仲間・対等』という意味があります。すなわち、同じように精神障害をもったピア「仲間」が、サポート「支援する」。

そういった人たち「サポーター」が、同じような悩みを抱えている人たちの手助けをする。ピアサポーターがグループで活動を行っているのが、今回お話に来ていただいた、「クローバー」なのです。

具体的な活動については、地域活動支援センターばる おかやまの交流室の運営、ピア・カウンセリングと電話相談、家事援助、同行・送迎サービス（買い物や診察など）、岡山市障害者自立支援協議会のホームページの運営管理、ピアサポーター養成講座の開催などを行っています。

さて、当日の研修の様子ですが。

ピアサポート活動の様子について話をいただいたり、ご自身の体験談をお話していただいたりしました。

また、グループホームでの生活について、話を聞きたいと先方から希望があり、参加したグループホームの入居者4名から、それぞれの思いを語っていただきました。

研修を通じて感じたことは、サービス利用する本人たちが中心となり、活動してい

ること。その原点には、「リカバリー」という考え方、人の役に立ちたいという思い、職員がおぜん立てをしたサービスを楽しむのではなく、あくまでも主役は本人、という思いが感じられました。

「もし誤りを犯す自由が含まれていないなら、自由に価値はない」マハトマ・ガンジーの言葉です。

ピアサポート活動においては、サポーターはうまくいかず失敗をして、悩むこともある、しかし他の仲間や活動を見守ってくれているスタッフがいることの安心感が活動の下支えになっている。今回の研修全体を通してそう思いました。

最後に、参加者全員が感想を話す中で、当法人のグループホームから参加していた入居者の中からも「研修という形にとどまらず、交流会ということで今後も続けたい」、「今度は、私たちの体験談を聞いて欲しい」という意見が出てきました。

当法人としても、利用者の希望を無駄にしない活動をしていきたいと強く思いました。

## ▼△▼△グループホームネット香川とかかわって ▼△▼△ あれから そして これから

細谷 賢嗣

私が、わが法人、「特定非営利活動法人グループホームネット香川」と関わってもう何年経つでしょうか？

1999年発足なので、準備期間も含めるとかれこれ17年以上になるでしょうか。

当時「ポストの数ほどグループホームを」をスローガンに、深夜までよく議論していたものでした。

関係者はほとんど、医師、PSWという精神保健福祉の専門家の方々ばかりで、私のような畑違いの者にとったらしゃべっている言葉の意味さえもわからず、戸惑いもありましたが、とても強い衝撃を受けた事を、今でも覚えています。

あれから年月が流れ今は、コンビニと同じ数ほどNPOがある時代となりました。今後やらなければいけないことは？求められるものは？

最近よく考えます。

わがNPO法人は、どうだろうか？ ミッションの共有化はできているのだろうか？ ビジョンは？ 市民主義は？ ネットワーキングは？ ホームワーカーのモチベーションは？ スキルは？ スタッフの待遇は？ 考え出したらきりがありません。まだまだ山積です。

これからのNPOにはいったい何が必要なのでしょうか？

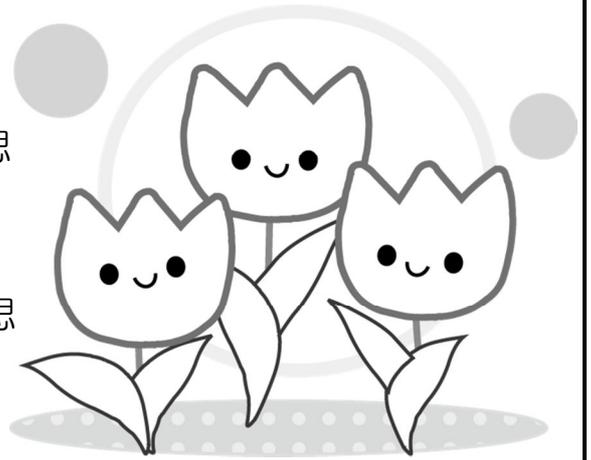
活動の継続、安定化するための財源、人材確保のためのマネージメント？ 自立した組織運営のための、ソーシャルビジネス？

いやいやもっと単純に「何かをしたい」「何とかしたい」という思い、そして行動力。思いと行動を共感出来る人々と活動を継続していく？

言うのは、簡単ですが…。

私が今、言える事はわがNPOが今後のビジョンを思い描きながらミッションを大事にし、その思いの達成の為に努力する事。

思いと共感と行動、そしてまた新しい思いを描く。このパターンを守っていく事が一番大切だと思います。



## ▼△▼△ 事務局 便り ▼△▼△

岩佐 亜紀

新しい年もはや3月となり年度末を迎えました。会員の皆様には、2013年度もグループホームネット香川の活動を支えていただき、感謝いたします。

今年度2月末時点で、3人の方が新規入居となりました。問い合わせの件数はご本人やご家族、また支援関係者からもあわせると26件を数えました。

以前に比べると、退院先住居（地域の受け皿）としてグループホームを考えたいという当初主だったニーズに加えて、面接の中で語られる「グループホームの利用を希望する理由」も個々のバラエティーに富んでいるようです。

また契約手続きなどの理解に特別の配慮を必要とする方、てんかん、アルコールの問題に対する支援を必要とする方など、支援に求められるニーズもより多様になってきたことが感じられます。

今年度は、限られた部屋数と現在支援可能な課題をよく見極めつつ、利用希望者に対応してきました。実際に入居となった方をみると若い年代が増え、入居後には生活支援に加えて就労に対する支援が新たな比重を占めるようになってきています。

当法人のあゆみを振り返ってみると、約9年前の2005年に現在のコーポ・ビアーズ移転に踏み切り、前後して法人名称をグループホームネット香川と改めてから、毎年続けて新規ユニット設立に取り組む時期が続き、ビアーズ4号館の設立にこぎつけたのが2008年の末。それから現在まで5年以上が経ちました。その5年間の活動の意味は、当法人のグループホーム運営の基礎を固めるうえで重要なものとなりました。一方で支援内容を充実させるために人材育成に励み、もう一方では組織運営が円滑に行われるように事務局体制の確立に力を注ぎました。そうこうするうちに5年。ようやく、また新たな事業展開を考える素地が出来てきたように思います。

グループホーム新設か、あるいは新規事業拡充か、…考えられる事業の具体的展望はまだこれからですが、いずれにせよNPO法人としての活動基盤を充実させるためには、広く社会に向けて活動内容への理解と協賛を得ることに努め、会員拡大を図ることが必要です。当法人が長年かけて育ててきた活動理念とその対人支援の信念は、他にあまり類をみない価値あるものと、理事はじめ職員それぞれに自負しています。

当法人内に留まらず、グループホームネット香川が発信する地域支援のあり方が、これから生まれるグループホーム事業のあり方に良いヒントになればと願っています。

会員の皆様、また当法人の活動に関わる多くの方々には、今後とも当法人の活動を注意深く見守っていただき、ご指導とご協力を心よりお願い申し上げます。

## グループホームネット 香川

(発行) 特定非営利活動法人 グループホームネット香川

連絡先: 香川県高松市円座町1124番地6 2階

TEL: 087-885-5270 Fax: 087-887-5955